

「教職員向け水俣病啓発事業」受講者の皆様へ

2022.4

一般社団法人水俣病を語り継ぐ会・吉永利夫

090-9078-0659 yoshinaga.toshio@gmail.com

<https://kataritugu.jimdofree.com>

私たちはパートナーです。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、残念ながら今も止まりません。その影響は私たちの想像を超えて、皆さんの学校現場や地域、家庭に広がっていると思います。そうした中で「水俣病」を学び、子供たちや保護者の方々に伝える意味がどこにあるのか、今回の研修を通じて共に考えていただきたいと思います。

「公害水俣病」によって自然が破壊され、多くの生命と人々の暮らしも大きな被害を受けました。多大な経済的損失や、差別・偏見による精神的苦痛等も伴っています。このことは「新型コロナウイルス感染症」による多様な被害に通じることでもあります。現代を生きる子どもたちも、地域や家庭の崩壊や貧困等による苦勞を味わい、いじめや偏見に晒されることも多々あるとお聴きしています。私たちは熊本県とも協力して水俣病で経験した事象を基に、人権感覚を養い、差別をしない、させない子どもを育てるための、サポーターを目指しています。私たちは教職員の皆さんと共に、子どもたちと向き合いたいと思っています。本日の研修では様々なご意見、ご提案が頂ければ幸いです。

私たちにご相談ください。

- 患者家族や支援者をはじめ、地元の教職員、国・県・市の担当者、そして水俣市民等とのネットワークがあります。
- チッソ(株) 水俣工場、水俣市立水俣病資料館、水俣病歴史考証館、親水護岸、患者多発地域等々、水俣現地を案内しています。
- 授業用教材として「水俣の箱」を作成し、貸し出しを行なっています。箱には「水俣湾で使用されていた仕切り網。不知火海の貝。シーグラス。」等が入っています。もっと入れたいものがあれば、ご提案願います。
- 私たちは学校の授業に出張して、水俣病の被害や経験を伝える講話や朗読を行っています。
- 予算がある場合には、案内や講演等は有料です。予算が無ければ結構です。事前・事後の授業、現地研修、校内学習の教材として活用ください。